



主 催 者 挨拶

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団
理事長 木 村 隆 昭

全国各地から多くのジュニアセイラー、指導者そして保護者の方々を浜名湖に迎え、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

さて、本年も「第21回YMF Sセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が文部科学省、公益財団法人日本体育協会、静岡県、浜松市をはじめ多くの団体・企業の皆様のご後援、ご協賛をいただき、ここ「静岡県立三ヶ日青年の家」にて昨年に引き続きジュニアセイラーを交えて開催に至り、喜びに堪えません。

前回大会は、28クラブ87名のジュニアセイラーが集い、熱戦を繰り広げましたが、今回も前回に引き続き独立行政法人日本スポーツ振興センターの補助を受けスポーツ振興に貢献する大会として開催されます。その目的は、自然を相手に状況を自ら判断するセーリングスポーツを通して青少年の心身育成と、将来を担うジュニアセイラーが仲間と競い合う中で強い心と新しい技の成長にあります。そして『本格的なセーリングシーズンに入る前に自らの技量を再確認することで、今シーズンの新たな目標を設定する大会』として位置付けています。

参加選手の技能向上をサポートする目的から、昨年開催されたロンドン五輪代表選手および次回の五輪大会を目指すアスリートの国内トップレベルの選手を招いて、レース中そしてレース後の技術指導も実施いたします。

参加の選手の皆様におかれましては、浜名湖の自然変化に素早く・的確に対応し、日頃の練習成果を十分に発揮し、大会を通じて幅広い年代のセイラーとの交流と友情を育み、そして次への目標を見出されることを願っています。

またご引率の指導者、保護者の方々におかれましては、レース後の勉強会にも参加いただいて、運動能力を形成する重要な成長時期の子供たちへの専門的な視点からの指導の仕方など、交流を通して新たな学びが生まれれば幸いです。

最後になりますが、本大会開催にあたり、ご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様方に厚く御礼申しあげるとともに、参加される選手諸君、指導者、保護者の皆さんそして関係者にとって、絶好なコンディションの中、事故なく「参加して良かった」と感じられる素晴らしい大会になることを願い私の挨拶といたします。



歓迎のごあいさつ

NPO 法人 静岡県セーリング連盟
会 長 荒 田 忠 典

全国から多くのジュニアセイラー、ご家族、指導者の皆様が浜名湖に集い「第21回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が開催されますことを、静岡県セーリング連盟を代表し、心より歓迎いたします。

平成5年に第1回大会が開催されてから20年がたちました。ふり返りますと日本の高度成長からバブルの頃までは「今日よりも明日の方がもっと良くなる」と信じて誰もが「元気と希望」に溢れて頑張っていた時代でした。バブル崩壊後は失われた20年とまで言われ、日本に「元気と希望」が無くなった如くに言われています。

今一度、日本も「元気と希望」を持って老いも若きも頑張らなくてはならない時代になったと確信しております。

今、東南アジア、南米、アフリカの多くの新興国の人たちが「今日よりも明日の方がもっと良くなる」と信じて頑張ってきています。世界中のあらゆる場面で大競争時代が始まっています。スポーツも例外ではありません。スポーツの世界では「10代で世界と競う」が当たり前になってきました。

浜名湖の早春の強風をセイラー一杯に受け、ジュニアセイラー諸君が持てる力を精いっぱい発揮し、10代で世界と競えるセイラーに成長してくれることを心から願っております。

また選手の成長は、選手の指導、支援に当たるコーチの皆様や、ご家族の方々の努力のたまものでもあります。

選手を指導するコーチの皆様、ご家族の方々のご苦勞、ご負担は並大抵のものではないと思いますが、子供たちと成長を分かち合い、これからもたゆまぬご支援をお願いいたします。

最後に、本大会を開催するにあたり関係各位のご尽力とご協力に対し厚く御礼申し上げ、ご挨拶いたします。



ご挨拶

公益財団法人 日本セーリング連盟
会 長 河 野 博 文

「第21回YMF Sセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が、日本の中央に位置する浜名湖で全国から多数のジュニアセーラーが参加して盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。

昨年夏に英国ウェイマスで開催されたロンドンオリンピックでは、残念ながらメダルレースへの出場はかないませんでした。日本セーリング連盟では、2016年リオデジャネイロオリンピックに向けて取り組みを始めています。また2020年東京オリンピック招致に向けた活動も行っています。この大会に参加する皆さんも、将来世界に羽ばたく日本のトップセーラーとして、また将来のオリンピック日本代表選手として活躍されることを期待しております。

一昨年の東日本大震災では国内外のセーラーから多くの支援が寄せられ深く感謝いたします。昨年は被災地の高校生6名を米国に派遣し、サンフランシスコのヨットクラブと交流いたしました。

四周海で囲まれた日本の若者たちは、昔から「われは海の子」でした。とくにセーリングスポーツは、勇気、忍耐、冒険心、創造性、チームワークなど子供たちにとって望ましい資質を養う素晴らしいスポーツです。

参加するセーラーの皆さん、日頃培った練習成果を存分に発揮して、公益財団法人日本体育協会が進める「フェアプレー宣言」の精神で、「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」の気持ちを持って力いっぱいセーリングしてください。そしてすべての参加者が、楽しい思い出と友情を深める場として、心に残すことを願っています。さらに、いつまでもきれいな湖であるように、自然環境を大切にしてください。

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団が、子ども達の育成に注力し、本大会を継続して主催されておられることに深甚なる敬意を表するものであります。

終わりに、本大会開催のためにご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様には厚く御礼申し上げるとともに、選手諸君の安全と健闘を祈念し、ご挨拶といたします。